



## WLSE Autonomous 展開から WCS コントローラ展開の変換

この章では、Cisco Wireless LAN Solution Engine (WLSE) ネットワーク管理アプライアンスを Cisco Wireless Control System (WCS) ネットワーク管理ステーションに変換する方法について説明します。

**注意**

WLSE は、WCS への変換後には、WLSE として使用することも再度 WLSE に変換することもできません。これは一方向のみの変換です。

- **WLSE Autonomous** : WLSE ネットワーク管理アプライアンスは、Aironet 製品からの Autonomous アクセス ポイントで展開されます。アクセス ポイントの中には SWAN アーキテクチャ内のアクセス ポイントのセットのためのドメイン コントローラ (WDS) として機能するものがあり、このアクセス ポイントは WLCCP プロトコルを使用し有線ネットワークを介して通信します。  
WLSE ネットワーク管理ステーションは、WLSE ソフトウェアがインストールされた Cisco アプライアンスです。
- **WCS コントローラ** : WCS ネットワーク管理ステーションは、Red Hat Enterprise Linux を実行する、お客様が選択したハードウェアで展開されます。ネットワーク管理ステーションは、アクセス ポイントを制御するコントローラ スイッチを管理します。コントローラは、有線ネットワークを介し LWAPP プロトコルを使用してアクセス ポイントと通信します。
  - WCS は、Cisco Wireless LAN ソリューションの設定を保持します。これには、コントローラ、アクセス ポイント、および Location Appliance が含まれます。
  - これにより Cisco WCS のシステム管理者は、すべての Cisco WCS オペレータにログイン、パスワード、およびアクセス権を割り当てることができ、定期的なシステム タスクの時刻を設定することができます。
  - Cisco WCS オペレータはこれにより、接続されている任意のワークステーション上の Web ブラウザを使用して Cisco WCS の設定、監視、および管理の機能にアクセスできます。Cisco WCS オペレータは、Cisco WCS データベースの Wireless LAN Solution のコンポーネントおよび設定を権限レベルに応じて追加、削除、および変更することもできます。

この章の内容は、次のとおりです。

- サポートされるハードウェア (P. C-2)
- インストールと設定 (P. C-3)
- 変換されたアプライアンスの設定 (P. C-5)
- ライセンス供与 (P. C-9)

## サポートされるハードウェア

### サポートされる Cisco WLSE 管理ステーション

WLSE 管理ステーションから WCS 管理ステーションへの変換は、Cisco 1130-19 および 1133 プラットフォームでサポートされています。



(注)

WLSE 管理ステーションから WCS 管理ステーションへの変換は、Cisco WLSE 1030 Express プラットフォームでサポートされていません。

### LWAPP に変換可能な Autonomous アクセス ポイント

次の Autonomous AP モデルは、WCS コントローラ展開に変換できます。

- Cisco Aironet 1230AG シリーズ アクセス ポイント (AP 1232AG)
- Cisco Aironet 1200 シリーズ アクセス ポイント (AP 1200)
- Cisco Aironet 1130AG シリーズ アクセス ポイント (AP 1131AG)

## インストールと設定

WLSE ネットワーク管理アプライアンスを WCS ネットワーク管理ステーションに変換するには、次の 2 枚の CD が必要です。

- Wireless Control System バージョン 4.0 リリースの変換 CD。この CD によって、WCS ソフトウェアおよび Red Hat Enterprise Linux 3 が WLSE ネットワーク管理アプライアンスにインストールされます。
- WCS ネットワーク管理ステーションから Red Hat Enterprise Linux 4 にアップグレードするアップグレード CD。WLSE ネットワークステーションの分割による Red Hat Enterprise Linux 4 アップグレードに先立って、WCS ソフトウェアおよび Red Hat Enterprise Linux 3 のインストールを完了する必要があります。



(注)

WLSE ネットワーク管理アプライアンスを WCS ネットワーク管理ステーションに変換した後は、取り消すことができず、WLSE ネットワーク管理アプライアンスへ再度変換することはできません。

## Cisco WCS のインストール

Cisco WCS ソフトウェアをインストールする手順は、次のとおりです。WLSE ネットワーク管理アプライアンスへの物理アクセスが必要です。セットアップスクリプトおよびインストールスクリプトにはコンソールとの対話が要求されるので、WLSE アプライアンスにはコンソールアクセスが必要です。インストール処理の完了には約 45 秒かかります。



(注)

WCS ソフトウェアをインストールする前に、記録を保存する WLSE アプライアンス上のデータをすべてバックアップしておきます。データをバックアップするには、*User Guide for the CiscoWorks WLSE and WLSE Express* の *Backing Up and Restoring Data* を参照してください。

- ステップ 1** WCS ソフトウェアおよび Red Hat Linux Enterprise 3 ソフトウェアの CD を WLSE ネットワーク管理アプライアンスの CD ドライブに挿入します。
- ステップ 2** Command line Interface (CLI; コマンドラインインターフェイス) プロンプトを使用して、**administrator** として WLSE にログインします。
- ステップ 3** **reload** コマンドを入力して、リブートします。WLSE はリブート、ロードした後、CD からインストールします。インストール後に、CD は自動的にイジェクトされ、再びリブートします。
- ステップ 4** ユーザ名として **root** を、パスワードとして **setup** を使用してログインします。通常の WCS のインストール同様に、WCS ウィザードセットアップスクリプトの指示に従います。ネットワークのセットアップに適用できる値でプロンプトに回答します。さらにサポートが必要な場合には、「Linux 対応の WCS のインストール」(P.2-10) を参照してください。
- ステップ 5** リブートするプロンプトが表示された場合、**Y** または **Yes** と入力します。リブート後に、Red Hat Enterprise Linux 4 へのアップグレードに進みます。

## Red Hat Enterprise Linux 4 へのアップグレード

WCS ネットワーク管理ステーションから Red Hat Enterprise Linux 4 にアップグレードする手順は、次のとおりです。



---

(注) Red Hat Enterprise Linux をアップグレードする前に、WLSE を Cisco WCS ソフトウェアおよび Red Hat Linux Enterprise 3 ソフトウェアに変換しておく必要があります。

---

- 
- ステップ 1** Red Hat Enterprise Linux アップグレードソフトウェアの CD を WLSE ネットワーク管理アプライアンスの CD ドライブに挿入します。
- ステップ 2** ユーザ名として **root**、およびウィザードに入力したパスワードを使用してログインします。
- ステップ 3** **reboot** コマンドを入力して、WLSE ネットワーク管理アプライアンスをリブートします。
-

## 変換されたアプライアンスの設定

CD で Red Hat Linux 3 をインストールし、4.0 へのアップグレードを実行した場合、アプライアンスを設定できます。Linux のインストール後にマシンがリブートします。アプライアンス コンソールへの接続があることが必要です。その後、ログインするためのプロンプトが表示されます。ログイン後に下記のコンソール接続に関する一連のプロンプトが表示されます。

**注意**

WLSE は、WCS への変換後には、WLSE として使用することも再度 WLSE に変換することもできません。これは一方向のみの変換です。

**(注)**

WCS サーバは、アプライアンスを設定するまで起動しません。

```
localhost.localdomain login:
```

ログイン *root* を入力します。

```
Password:
```

パスワード *setup* を入力します。

```
Setup parameters via Setup Wizard (yes/no) [yes]:
```

セットアップ ウィザードを使用する場合は **yes** と入力し、手動でパラメータを設定する場合は **No** と入力します。経験豊富な Linux システム管理者のみが、セットアップ スクリプトを使用してシステムを設定することを選択できます。角括弧内のオプションは、デフォルトです。デフォルトを選択するには、**Enter** を押します。

```
Current hostname=[localhost]
Configure hostname? (Y)es/(S)kip/(U)se default [Yes]:
```

ホスト名は、ネットワーク上のデバイスを識別できる一意の名前です。

```
Enter a host name [localhost]:
```

ホスト名は、文字で開始し、文字または数字で終了し、文字、数字、およびダッシュのみを含みます。

```
Current domain=[localdomain]
Configure domain name? (Y)es/(S)kip/(U)se default [Yes]:
```

ドメイン名によって、このデバイスが属すネットワーク ドメインが指定されます。

```
Enter a domain name [localdomain]:
```

ドメイン名は、有効なドメイン名拡張子 (.com など) で終了し、文字、数字、ダッシュ、およびドットのみを含みます。文字で開始して、有効なドメイン名の拡張子 (.com など) で終了します。

```
Configure root password? (Y)es/(S)kip/(U)se default [Yes]:
```

**Enter** を押して、**Yes** を選択します。

```
Enter root password:
Confirm root password:
```

スーパーユーザのパスワードを入力し、再度入力して確認します。入力は表示されません。

```
Remote root login is currently disabled.
Configure remote root access? (Y)es/(S)kip/(U)se default [Yes]:
```

このマシンのセキュア シェルのルート ログインを有効にするには、**Yes** を選択します。これにより、コンソールからでも SSH を使用してでも、いずれの *root* ログインも許可されます。そうでない場合には、**Skip** を選択します。リモート ルート ログインを無効のままにすることを選擇する場合、*root* ログインはコンソールからのみ実行できます。

```
Enable remote root login (yes/no) [no]
```

**yes** を選択し、コンソール ログインに加えて SSH からのリモート ログインを許可します。no を選択し、コンソールからの *root* ログインのみを許可します。

```
Current IP address=[]
Current eth0 netmask=[]
Current gateway address=[]
Configure eth0 interface parameters? (Y)es/(S)kip/(U)se default [Yes]:
```

**Yes** を選択して、メインイーサネット インターフェイスのセットアップを開始します。ネットワーク管理者は、次のプロンプトの情報を入力できます。

```
Enter eth0 IP address:
```

このマシンのメインイーサネット インターフェイスの IP アドレスを入力します。

```
Enter network mask [255.255.0.0]:
```

入力した IP アドレスのネットワーク マスクを入力します。

```
Enter default gateway address:
```

メインイーサネット インターフェイスから到達可能であることが必要な、デフォルトのゲートウェイ アドレスを入力します。

```
The second ethernet interface is currently disabled for this machine.
Configure eth1 interface parameters? (Y)es/(S)kip/(U)se default [Yes]:
```

2 番目のイーサネット インターフェイスの情報を入力する場合、**Yes** を選択します。*eth1* の設定を選擇した場合、WCS プロパティ ファイル

(*/opt/WCS4.0/webnms/classes/com/aes/common/net/LocalHostUtils.properties*) を手動で編集して、*eth1* か *eth0* のどちらを使用してコントローラと通信するか、またどちらを使用してロケーションサーバと通信するかを指定する必要があります。(ManagementInterface= line を ManagementInterface=*eth0* または ManagementInterface=*eth1* に変更すると、コントローラ インターフェイスが指定されます。PeerServerInterface= line を PeerServerInterface=*eth0* または PeerServerInterface=*eth1* に変更すると、ロケーションサーバ インターフェイスが指定されます。これは省略できます。表示される次のプロンプトは DNS です。

```
Enter eth1 IP address [none]:
```

このマシンの 2 番目のイーサネット インターフェイスの IP アドレスを入力します。

このマシンの 2 番目のインターフェイスの IP アドレスを入力したので、このインターフェイスの静的ルーティング エントリを 2 つまで定義する機会が与えられます。各エントリには、ネットワーク アドレス、ネットワーク マスク、およびゲートウェイ アドレスが必要です。

```
Enter network mask [255.0.0.0]:
```

指定した IP アドレスのネットワーク マスクを入力します。

```
Enter network [none]:
```

ネットワーク アドレスを入力します。

```
Enter network mask [255.0.0.0]:
```

入力した IP アドレスのネットワーク マスクを入力します。

```
Enter gateway address:
```

入力したネットワークおよびネットワーク マスクのゲートウェイ アドレスを入力します。

```
Domain Name Service (DNS) Setup
DNS is currently enabled.
No DNS servers currently defined
Configure DNS related parameters? (Y)es/(S)kip/(U)se default [Yes]:
```

DNS を 3 つまで入力できますが、無効にしておくこともできます。サーバは定義されていません。

```
Enable DNS (yes/no) [yes]:
```

**Yes** を押して、DNS を有効にします。

```
Enter primary DNS server IP address:
```

この DNS サーバの IP アドレスを入力します。

```
Enter backup DNS server IP address (or none) [none]:
```

バックアップ IP アドレスを入力します。2 番目の DNS サーバを入力すると、オプションの 3 番目のサーバのプロンプトが表示されます。

```
Configure timezone? (Y)es/(S)kip/(U)se default [Yes]:
```

**Yes** を押して、時間帯を設定します。

```
Please identify a location so that time zone rules can be set correctly.
Please select a continent or ocean.
1) Africa
2) Americas
3) Antarctica
4) Arctic Ocean
5) Asia
6) Atlantic Ocean
7) Australia
8) Europe
9) Indian Ocean
10) Pacific Ocean
11) UTC - I want to use Coordinated Universal Time.
12) Return to previous setup step (^).
```

時間帯ルールを正しく設定できるように、ロケーションを選択する必要があります。適切な大陸または海の番号を選択します。

```
Please select a country.
```

選択した大陸または海に基づいて、国を選択することができます。適切な番号を選択します。

```
Please select one of the following time zone regions.
```

選択した国に基づいて、目的の時間帯の地域の番号を入力します

選択した時間帯の情報が表示されます。

```
Is the above information OK?
1) Yes
2) No
```

**Yes** を押して、情報が正しいことを確認します。**No** の場合、一連のプロンプトが再度表示されます。

```
NTP is currently disabled.
Configure NTP related parameters? (Y)es/(S)kip/(U)se default [Yes]:
```

Network Time Protocol (NTP; ネットワーク タイム プロトコル) を有効にすることを選択した場合、選択した NTP サーバからシステムが設定されます。**Skip** を選択した場合は、現在の日時を入力するプロンプトが表示されます。

```
Enable NTP (yes/no) [no]:
```

**Yes** を選択した場合、NTP サーバ名またはアドレスを入力する必要があります。

```
Enter NTP server name or address:
Enter another NTP server IP address (or none) [none]:
```

選択がすべて表示されます。次に、入力したすべてのセットアップ情報を確認するよう求められます。**Yes** を入力して設定を進めるか、**No** を入力してさらに変更するか、または **^** を入力して前の手順に戻ることができます。

```
Is the above information correct (yes, no, or ^):
```

**yes** の場合、設定情報が適用されます。変更が行われたことを確認するプロンプトが表示された場合は、システムをリブートすることをお勧めします。**WCS** サーバはリブート後に自動的に起動します。

**root** を使用して次回ログインすると、Linux シェルプロンプトのみが表示され、セットアップ スクリプトは表示されません。いつでもセットアップ スクリプトを再度実行し、**root** を使用してログインし、**/opt/setup-appliance/setup.sh** を実行することによって設定を変更できます。



## ライセンス供与

WLSE ネットワーク管理アプライアンスの WCS ユーザ インターフェイスに完全にアクセスするには、ライセンスが必要です。これらのアプライアンスには、安価な WCS WLSE Upgrade License が用意されています。ライセンスを購入すると、必要な WCS-WLSEU-K9-4.1.xx.0.iso 変換ファイル、および必要な WCS-WLSEU-K9-4.0.xx.0.upgrade.iso アップグレードファイルを受け取ります。



(注) ファイル名内の xx は、バージョン番号を表します。

## WLSE アップグレード ライセンス

WLSE アップグレード ライセンスは、変換された WLSE アプライアンス上でのみ使用できます。後で別のマシンに転送することはできません。

WLSE アップグレード ライセンスは、WLSE から WCS へ変換するネットワーク ステーションのホスト名固有であることが必要です。インストールおよびスタートアップはライセンスなしで進みますが、WCS ユーザ インターフェイスにライセンスなしでアクセスすることはできません。

ライセンスをインストールするには、付録 B 「WCS およびエンド ユーザ ライセンス」を参照してください。

■ ライセンス供与